

沖縄県与那国島におけるシロハラホオジロの拾得記録

平岡 考¹・本成 尚²

キーワード：シロハラホオジロ, *Emberiza tristrami*, 沖縄県, 与那国島, 分布記録

シロハラホオジロ *Emberiza tristrami* は、アムール川中流域、中国東北部、ウスリー地方で繁殖し、主に中国南部で越冬し、日本には迷鳥として北海道、本州、九州、琉球列島等で記録がある（日本鳥学会2000）。McWhirter, et al. (1996) は、本種を沖縄県では稀な旅鳥・冬鳥としている。筆者の一人本成が沖縄県与那国島で2002年11月に入手した種不明のホオジロ科の拾得斃死体は山階鳥類研究所に寄贈され、同定の結果シロハラホオジロ（雌第一回冬羽）と判明した。本種の沖縄県における記録の少なさを考慮しこの記録について報告する。

採集日：2002年11月4日、採集地：沖縄県八重山郡与那国町祖納村（八重山諸島与那国島）、採集状況：斃死体を拾得。

形態的特徴：全体に褐色で暗色縦斑があり、腹が白い鳥（図1）。頭頂は黒褐色でバフ色の頭中央線がある。眉斑はバフ色、過眼線は黒色で後方で太く明瞭、下頬線は白く、顎線は黒色、喉はバフ色で下縁を限るように不明瞭な褐色の横帯がある。襟は灰褐色。翁は褐色で黒色の縦斑がある。翼の上面は全体に黒褐色で、大雨覆、中雨覆の先端にバフ色の斑があり、三列風切の羽縁は赤褐色。腰は一様な赤褐色で、羽縁や羽軸の模様はない。胸と脇は淡赤褐色の地に褐色の縦斑がある。腹、下腹は白く、わずかに褐色の軸斑がある。尾羽は黒褐色で中央の1対は赤褐色、外側の2対の主には内弁に白斑がある。尾羽の各羽の先端は尖る。嘴は基部が太く先端は尖り、嘴峰は直線的である。

裸出部の色彩：上嘴は基部から先端まで暗色で縁に沿って肉色。下嘴は肉色で先端は暗色を帯びる。脚は肉色。虹彩色は暗灰褐色であるが、腐敗のため生時の正確な色彩は不明。翼式：（最外を1として） $3 > 2 = 4 > 1 > 5$ 、P2～P5の外弁に欠刻。

測定値：自然翼長67.3、最大翼長69.5、尾長56.0、ふ蹠長19.3、露出嘴峰長10.2、全頭長29.0、全長140、翼開張190（単位mm、測定平岡）。

頭骨の骨化（含気化）指標（Svensson 1992）：C
性別：鳥体は山階鳥研で受入れた時には腐敗しており剖検による生殖巣の確認はできなかった。下記の通り計測値からは雌と考えられる。

この個体の形態、測定値、色彩からシロハラホオジロの雌の第一回冬羽と考えられる。測定値は露出嘴峰がやや短いが、全体として山階(1934)の挙げるシロハラホオジロ雌の測定値の範囲に収まる。雄は翼長が70mm以上なので該当しない。羽色からも頭頂が黒褐色で淡色の頭中央線があり、胸から脇が褐色縦斑のある淡赤褐色で腹は白く、腰が一様な赤褐色であること、喉が淡色なこと等からシロハラホオジロの雌と考えられる。シロハラホオジロの雄第一回冬羽の色彩については山階(1934)に記載がなく、雌と似ている可能性もあるが、本個体は測定値から雌と考えられる。同様に頭中央線のあるキマユホオジロの雌は眉斑が黄色で測定値が大きい。シラガホオジロは頭頂のパターンが異なり、腰の赤褐色部に淡色羽縁があり鱗状に見えるほか、測定値がはるかに大きい。コホオアカは頭中央線が茶褐

1 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

山階鳥類研究所

2 〒907-1801 沖縄県八重山郡与那国町与那国1049

与那国町立与那国中学校

色で、胸や腰は赤褐色みに欠ける。アオジは全体に赤褐色みに乏しく腰も緑灰褐色である。クロジは尾羽に白斑がなく測定値が大きい。年齢は、頭骨の骨化（含気化）指標がCであり、尾羽が尖っており幼羽と考えられることから、当年生まれの第一回冬羽と考えられる。

McWhirter, *et al.* (1996)のまとめによれば、沖縄県におけるシロハラホオジロの記録は、西表島1921年10月(OSJ, 1974), 与那国島1984年12月31日(沖縄野鳥研究会1993), 糸満市西崎1988年5月(沖縄野鳥研究会1995)がある。ただし、沖縄野鳥研究会(1993)に掲載の与那国島の写真の個体は胸から脇に赤褐色みがなく腹の白とのコントラストがないこと、頭頂の頭中央線の外側が一様な黒褐色でないこと、体全体に灰オリーブ色であること等から、シロハラホオジロではなくアオジ*Emberiza spodocephala* (シベリアアオジ *ssp. spodocephala?*) のメスと考えられる。この後、シロハラホオジロは久米島で2003年5月2日オス1羽の標識放鳥例がある(前原一統私信)。以上の記録から判断すると、本種は沖縄県からは確実な越冬期の記録はなく、春秋の記録があるのみであるため、たかだか稀な旅鳥といえるにとどまると思われる。なお、本研究の個体は腐敗しており剥製標本として保存するのは不可能なため、風

切・尾羽と頭骨を採取して保存した(山階鳥研受入番号:2002-0320)。

久米島における標識放鳥例についてご教示くださった前原一統氏に感謝したい。

引用文献

- McWhirter, D.W., H. Ikenaga, H. Iozawa, M. Shoyama & K. Takehara, 1996. A Check-list of the Birds of Okinawa Prefecture with Notes on Recent Status including Hypothetical Records. *Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum*, 22:33-152.
- 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録改訂第6版, 日本鳥学会, 帯広.
- 沖縄野鳥研究会, 1993. 改訂沖縄県の野鳥. 沖縄出版, 浦添.
- 沖縄野鳥研究会, 1995. デジタル図鑑沖縄の野鳥. バグハウス, 宜野湾市.(CD-ROM)
- Ornithological Society of Japan, 1974. Check-list of Japanese Birds. 5th ed. Gakken, Tokyo.
- Svensson, L. 1992. Identification Guide to European Passerines. 4th. ed. Published by the author, Stockholm.
- 山階芳麿, 1934. 日本の鳥類と其の生態. 第1巻. 梓書房, 東京.

A record of Tristram's Bunting from Yonaguni Island, Okinawa Prefecture.

Takashi Hiraoka¹ and Naoshi Motonari²

KEY WORDS: Tristram's Bunting, *Emberiza tristrami*, Okinawa Prefecture, Yonaguni Island, distributional record

On 4 November 2002, a Tristram's Bunting *Emberiza tristrami* was found dead on Yonaguni Island in southern Ryukyu Islands. From the plumage it was considered to be a female. The records of this species from Okinawa Prefecture suggest that this species visits the prefecture very rarely on spring and fall migrations.

1 Yamashina Institute for Ornithology, Konoyama 115, Abiko, Chiba Pref. 270-1145

2 Yonaguni Junior High School, Yonaguni 1049, Yonaguni-cho, Okinawa Prefecture 907-1801



図1：与那国島で拾得されたシロハラホオジロ（山階鳥研受入番号：2002-0320）